

佳作

病気がぼくにくれた夢

福島県 須賀川市立第一小学校四年 安食 颯真

ぼくの夢は、「プロ野球選手になること」です。この夢は病気がぼくにくれたものです。

ぼくは、三年生の春に大きな病気にかかってしまいました。仙台市の大病院に一ヶ月間入院しました。入院生活では、食事せい限があり、大好きなスイカも食べられないし、のどがかわいてもお茶か水しか飲めず、とてもつらかったです。また、薬は今まで味わったことがないほど苦く、ぼくはその薬を飲むことができずに泣いてしまったこともありました。そんなぼくをちりょうしてくれた先生は、いつもぼくを明るくはげましてくれたり、その薬を飲むときだけは、オレンジジュースを飲んでもいいよと言ってくれました。その時のジュースの味は、今までで一番おいしかったです。

ぼくが退院して二ヶ月後の通院で先生から

「東北楽天ゴールデンイーグルスの嶋選手が病気とたたかっている子供を試合にしようたいしてくれませんが行きますか。」と聞かれ、ぼくは初めての野球かんせんに行くことになりました。

試合当日、ぼくをしようたいしてくれた嶋選手の力強いバッティング、流れるようなグラブさばき、そして何よりも捕手として一人だけ他の選手と反対向きにしゃがんでいる姿がとてまかつこよくて、この時ぼくは「プロ野球選手になる」という夢をもったのです。

ぼくは、仙台の向山ビーンズというチームに入り、野球を始めて一生けん命練習をしました。四年生から須賀川市に転校が決まっていたぼくは、仙台での最後の試合で、練習ではいつもとれなかったフライをとれたり、かんとうしようをもらうことができたので、とてもうれしくて今でも覚えています。

転校してからは、須賀川なん式ルーキーズに入りました。入ってまだ五ヶ月ですが、Bチームのレギュラーになることができました。

今年の七月、ぼくは練習試合に八番バッターで出場しました。試合では、一年生から三年生は活やく

していました。ぼく達四年生はヒットをなかなか打てませんでした。そんな時、ツーアウトまんないでぼくに打順がまわってきました。するとかんとうは、ぼくに、

「どうした四年生。打たなきゃスタメン外すぞ。」と言ったので、ぼくは「ぜったい打ってやる」と思いました。初球はボール、そして二球目はど真ん中に来たのでぼくは「あまい」と思い、思いきりバットを振ったらボールは相手の外野をこえて飛んでいききました。ぼくは、全力で走り、なんとダイヤモンドを一周してホームまで帰ってこれました。初めてのまんるいランニングホームランです。とてもとてもうれしかったです。

今、夢中になれる野球に出会わせてくれた病院の先生、支えてくれた家族に感しゃしています。病気がとうまく付き合って、いつかあこがれの嶋選手とプレーしてみたいです。